法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

/ 58 年館に解体の危機



スの55年館、58年館を解体して建てなお

それに対して、5月18日にデザイン工

学部より「55/58 年館の再生に向けて一デ

ザイン工学部からの提言」が増田壽男総長

あてに提出され、建物を取り壊すことなく、

リノベーションを行うことが最善の方法で

当初大学は、新築案、リノベーション案

の両案を検討してゆくとしていましたが、

6月に入り、理事会においてリノベーショ

ン案を退けて、新築案に決定したというこ

皆様ご存知のように、55/58年館は、す でに取り壊された53年館と共に、戦後日本 の復興期に、新たな日本の未来を担う若者 の教育の場として、大江宏先生によって設 計されました。日本を代表する、インター ナショナルスタイルの建築として、高い評 価を受け、文部大臣賞芸術選奨、日本建築 学会賞、BCS賞を受賞した名建築です。

すという計画が発表されました。

あると提言しました。

とです。

日本建築家協会 (JIA) より、また10月21日に は日本建築学会より、 55/58 年館の保存活用に 関する要望書が、提出さ れました。

その後、9月6日に、

建築同窓会としても、 この問題に対して何らか の行動を行わなくてはい けないと言うことで、9 月以来何回か会合を重ね

てきました。

しかし、この問題は、建築学科だけでな く、法政大学全体の問題として取り組むべ きであると言うことから、10月28日に「法 政大学 55/58 年館の再生を望む会 | を結成 しました。

「再生を望む会」では、11月13日に 55/58年館の見学会を行い、11月24日には、 増田壽男総長宛に「55/58 年館の再生活用に 関する要望書」を提出しています(次頁に全 文)。

12月25日には、58年館の教室で「大学 が未来にわたすもの-法政大学 55/58 年館 の再生を考える」と題されたシンポジウム



第 46 号 2011年3月15日

T 184-8584

東京都小金井市梶野町 3-7-2 振替口座 1-89264 TEL · FAX (042) 387-6385 法政大学工学部建築学科同窓会

発行人 岡本 眞 編集人 会報編集委員会



を行いました。基調講演を京都工芸繊維大 学教授の松隈洋氏にお願いし、その後のパ ネルディスカッションには、元国立市長の 上原公子氏、社会学科 OB の吉川新吾氏、 建築学科からは大江新教授、陣内秀信教授 に参加していただき、55/58年館を巡る活 発で広範な討論が展開されました。

当日は、200名を越える多くの参加があ り、建築学科以外の方の参加も多く、熱心 な質疑応答が繰り広げられました。

「再生を望む会」では、その後も55/58 年館を解体することなく、再生活用される よう様々な活動を繰り広げてゆきたいと思 っています。その為には、建築学科卒業生 の支持と活動応援が不可欠です。

「再生を望む会」では、下記ホームペー ジで、広範な意見の募集と、署名活動を行 っています。ぜひ、ホームページにアクセ スして、ご協力をお願いいたします。

http://www.55-58saisei.sakura.ne.jp/



同窓会ホームページとメールマガジンのご案内

同窓会のホームページは、同窓会の行事、卒業生の活躍、学校の行事などリアルタイムで更新しています。ぜひ、時々覗いて見て下さい。 又、毎月25日にメールマガジンを発行しています。メールマガジンの購読は同窓会ホームページから簡単に出来ます。登録はもちろん無料。 OB、OGのリレーエッセイも好評です。エッセイも皆さんから随時募集していますので、ぜひお送り下さい。

同窓会ホームページの URL は、http://www.hosei-archi-ob.sakura.ne.jp/ です。http://www.hosei-archi-ob.sakura.ne.jp/

同窓会会費について

現在工学部同窓会の学科組織として傘下に建築同窓会はいます。デザイン工学部建築学科に大学組 織は変わりましたが同窓会はそれにとらわれることなく工学部同窓会の行方を見守っていきたいと考 えています。よって会費は今まで通り毎年3,000円もしくは永久会員(事務局へお尋ねください)と して登録お願いします。

そしてこの法匠会報は工学部同窓会報発行にあわせ郵送してます。工学部同窓会報は前号第79号 より会費納入者のみに配布となっております。同窓の皆様からのご浄財で成り立っていますのでご協 力お願いします。

工学部同窓会事務局 TEL/FAX 042-387-6385



衞著『構造と感性』1・2・3・4 刊行 (建築同窓会発行:送料込み各1,000円) 川口衞研究会での講演記録です。

■希望者は同窓会ホームページからお申込み下さい。 振込用紙と共に送付します。

要望書全文

拝啓 貴大学におかれましては、ますま すご清祥のこと お慶び申し上げます。

私たちは、法政大学市ヶ谷キャンパスの 55·58年館取壊しの報を聞き、この取り返 しのつかない社会的損失ともなる開発手法 に、強い危惧をいだき「法政大学55·58年 館の再生を望む会」を発足いたしました。

「法政大学55·58年館の再生を望む会」は、デザイン工学部より5月付けで提出された「55·58年館の再生へ向けて~デザイン工学部からの提言~」を全面的に支持し、55·58年館の取壊しに反対するとともに、適切な再生を加えた保存活用を切に願い、本校舎の持続可能な使用をお願いする次第です。

55·58年館は、1995年に解体された53年館を含む一連の校舎群として、日本建築学会賞、文部大臣芸術選奨、BCS賞(建築業協会賞)などなだたる外部評価を得た名建築です。

1950年代、戦後の焦土復興のなかで日のなかで、50数年間をへてなお清新な本が一瞬垣間見せた純粋な民主主義への希 55·58年館は、学び舎であった多くの卒業

求が、この輝かしい校舎となって具現化します。そこには、大内兵衛総長を中心とする大学の人々の、戦争と決別し自由な学園を築き上げようとする願いが込められています。55·58 年館は、名建築としての価値のみならず、戦後の新制大学としての法政大学の歩みを表象すると同時に、日本の戦後史をもシンボライズする文化的資産としての存在意義をも有しています。

法政大学建築学科はいま、未来にむけて 国際的な確固たる位置づけを獲得すべく、 JABEE 認定を得ようとしていると聞いて います。そこでは、当建築学科の歴史をふ まえ大江宏先生以来の「アーキテクト・マ インド」をモットーとする建築教育が目指 されています。その精神を体現し、生きた 教科書として存在するのがまさに建築家大 江宏設計の「55·58 年館」であり、国際的 にもそれを証しうる実在でありましょう。

現在、市ヶ谷キャンパスは、当55.58年館を含んで $80\sim00$ 年代までの校舎群が新旧混在し有機的風景を形成しています。そのなかで、50数年間をへてなお清新な55.58年館は、学び金であった名くの卒業

生にとって「記憶を呼び起こすことのできる」唯一の建築です。それは、現役学生と 卒業生を繋ぐ生きた歴史再生の場であることを意味し、「未来に対して残すべき文化」 であることを指し示していると考えます。

法政大学の「自由と進歩」の建学の精神、教育目標のなかにも謳われる「21世紀市民社会の新たなる創造/持続可能な地球社会の構築」に相応しい大学キャンパスのあり方として、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドではなく、大学の歴史とともに風景を築いてきた名建築との「21世紀型の新たなる共生」を強く願います。校歌にある「進取の気象、質実の風」の誇らしいシンボルともいえる55・58年館を未来の後輩たちに届けたい、先達から引き継いだゆたかな歴史観と建学の精神を断ち切らぬためにも、多くの意義を有する55・58年館の保存再生を切に願っています。

ぜひとも、55·58年館のリノベーションによる保存再生の方向をご検討いただき、 法政大学の固有な価値に根ざした未来をと もに描いてゆけることを望みます。

敬具

新年会 2011



平成23年1月26日(水)市ヶ谷キャンパスB.Tスタッフクラブにおいて教室、同窓会合同の新年会が開かれた。岩下先生、川口先生など退職された先生方もお見えになり、卒業生や現役の先生方との久しぶりの顔あわせもあり、大変にぎやかな夕べとなった。

今年はデザイン工学部建築学科となって 初めての卒業生が出る。主任高村教授から はデザイン工学部建築学科の活動状況などの詳細な報告がなされた。

昨年は大学当局から市ヶ谷キャンパスの開発方針が発表され、それに危惧して建築学科から「55/58年館の再生の提言」が発表されており、建築学科OBが中心となり、「法政大学

55/58 年館の再生を望む会」を立ち上げた。 代表の岡崎浩司氏より趣意及び活動の状況 が報告された。

また同窓会からも多岐活動の内容と報告があり、(途中、歓談……) 最後に記念撮影と、これからの建築学科の躍進及び卒業生諸兄の健勝を祈念して校歌とエールにより終寡となった。

建築学科 1960年卒業 眞野満男氏「瑞宝小綬章」を受章

眞野満男氏は、平 成 22 年の秋の叙勲 で「瑞宝小綬章」を 受章されました。 野氏は永年にわた り、北海道工業高学校 校長を始め、北長書海理 東長、全国工業事 校長協会会理事等



の要職に携わり、工業高等学校教育の充実・発展に尽力されました。平成16年11月に「産業教育功労者文部科学大臣賞」を受賞し、さらに今回の「瑞宝小綬章」を受章となりました。北海道の産業教育に携わる関係者による叙勲祝賀会が平成23年2月23日(土)に札幌市にて盛会に開催されました。

「ウォークラリー 2010」の報告

2010年度のウォークラリーは、5月29日(土)午後1時より全14コースに分かれ、新1年生(144名)と先生、学生、院生、我々OB・OGが共に、東京の街並みの楽しさを体感しました。午後4時頃には市ヶ谷田町校舎B1のカフェテリアに集い、賑やかな報告会・懇親会を行いました。今年は卒業設計の「レモン展の審査を観る」渡邉ゼミ、「昭和初期の木造住宅を測る」高村ゼミなど、新しいコースが企画され、今までにない、新たな楽しいウォークラリーとなりました。

その後、先生、院生と OB・OG よる酒

会となり、無事終了しました。

● 2011年度のウォークラリー開催予定 2011年5月28日(土)です。

詳細は、法政大学建築学科同窓会ホームページに掲載されます。

OB・OG の皆さん新一年生と楽しい一時を過ごしましょう。



第7代建築同窓会会長 遠山省三氏逝去

平成22年10月3日第7代建築同窓 会会長遠山省三氏が逝去されました。

遠山氏は1960年法政大学工学部建築学科を卒業後、(株)トーキンEMCエンジニアリングを主宰し、1989年~1990年第7代法政大学建築学科同窓会会長として、その後も長年にわたり建築同窓会に多大なるご尽力を下さいました。

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

法匠女性ネットワーク

横須賀美術館見学会

9月25日、横須賀美術館見学会が行われた。連日の雨模様も参加者の気持ちが通じ、風は少々強いものの青い海と空、東京湾の眺望がすばらしい。強風で横須賀から乗船予定の船が欠航したため、波飛沫を避けながら、海岸遊歩道よりアプローチする。美術館は海と三方の背後の緑深いなだらかな山の間に、半透明の硝子皮膜に覆われて、景観に溶け込むように建てられている。海から広い緩やかな芝生の前庭を上り、開放的なレストランとショップの間のエントランスホールへ。この前庭は海の広場と名付けられており、人々はピクニックがてら、展示作品を叩く、揺らして音を出す。ペイントされた石を移動する等、いつの間にか、



遊びながら、アートに参加している。エントランスホールの吹き抜けや回廊は鉄板の構造体に開けられたトップライトや水平線の見える丸窓が開けられ、自然光がやさしく差し込んで来る。階段とシースルーのエレベーターからは、小屋裏も見ることが出来き、ベントハウスから屋上広場へ出ると、そこは背後の山の遊歩道とつながっている。散歩しながら美術館の空間を楽しんで通り抜けることも出来るのだ。展示作品鑑賞の機能だけで無く、この美術館の空間は人々に憩いと楽しみと、アートの心を提供していると感じつつ、居心地よさに名残も惜しく、帰路に着いたのであった。

(小川かよ子)



エネルギープラント見学会

法匠女性ネットワークは 12 月 11 日(土) 六本木ヒルズエネルギーセンターの見学会 を行ないました。

今回の見学会は建築学科教室から後藤先生引率の下、後藤研究室、出口研究室の学生17名が参加し、総勢29名の会となりました。

六本木ヒルズは地権者約400名からなる 再開発組合と森ビルの共同事業として、2003年4月にオープンしました。開発面 積11.6ha、オフィス、ホテル、商業施設、 住宅等から成る複合施設で、昼間人口約50.000人といわれています。

先ず開発エリアの全貌を見て、エネルギープラントへ行きました。ここにはガスタービンで電気を製造する発電施設と発電時に発生する熱を利用して蒸気・冷水を製造する熱供給施設があり、この電気と熱をヒルズ全体に供給しています。地域冷暖房やコジェネレーションシステムについての説明には多くの質問がでて興味の深さが伺えました。

帰り道で見たイルミネーション、この電気は今見てきた地下の発電所から送られていると思うといっそう輝いて見えました。

(松原清美)

第14回 法匠展開催

建築学科が市ヶ谷田町校舎へ移転をし、 小金井キャンパスが理工学部へと変貌して いくなか、この法匠展は14回目を重ねます。 昨年は43人と一昨年の最多記録を超え て、先生方、OB、学生諸君が多彩な作品 と共に集い、全員参加の研究室もあって大 いに盛り上がり、若い学生の参加が増えて いるのは大変楽しみな所です。

絵画・陶芸・書・写真・彫刻はもちろん、 どのジャンルとも言えない造形作品をも出 展される多様な華やかさはその楽しさをそ のままオープニングパーティに持ち込みま す。ここでの世代を超えた出会いの中での 話題は尽きず他にはない魅力です。

「有朋自遠方来 不亦楽乎」58年館学生 ホール吹抜の壁面に掲げられる言葉そのも のとも言えるのが法匠展です。

また、大江宏賞受賞作品を特別展示とす

るのも特徴、第1回受賞から連続して展示して今年も実現すれば7回目。さらに多くの方々のご出展をお待ちしております。

第 14 回法匠展・50

会場:武蔵野芸能劇場 2 階ホール (JR 中央線三鷹駅下車北口)

会期:6月10日~14日

搬入:6月9日夕方 搬出:14日夕方 連絡先:プラナーク設計内、近藤一郎 E-mail: kon-kn-1@mx4.mesh.ne.jp



法匠ミニセミナー

2010「沖縄の暮らし」 環境をデザインする

2010年6月11日(金) 市ヶ谷田町校舎に於い て朴賛弼(Park Chanpil/ パク チャンピル)氏 (博 士 '97卒) による

• 住まいにみる沖縄の伝



統民家の造形文化 • 沖縄の民俗建築を継承する現代風の暮らし • エコハウスを目指して沖縄の温熱環境改善等についてのミニセミナーが開催された。 沖縄には島暮らしの伝統が生きている家が数多く残っており、そこにはその地域の文化や歴史などを含めた暮らし方がある。一方、RC建造物も多く、温熱環境を劣悪なものにしている。伝統民家はパッシブ的な自然エネルギーを主としたエコハウスである。

1962年 卒業同期会

晩秋の箱根は湯本駅前、水明荘に 1962 年卒の面が南は九州福岡や中国は広島から、ゴルフ組はプレー後にそれぞれ駆けつけ11月16日、17日、一泊二日で16名が参集した。7回目の干支を目前にしており、話しは昭和30年、麻布三ノ橋校舎時代ですが、容姿の方は僧籍に近い人、薄い人、総白髪の人等面影は昔のまま。親睦会は6時より万年代表世話役の金子泰造君の挨 拶で始まり、二次会はカラオケと相成り、 12時まで楽しみ、法政校歌を謡いお開き となりました。翌朝、朝風呂で身を清め、 庄助さんばりの朝酒をのみ、ゆっくりと解 散をしました。同期会、同窓会はまた格別 のものがありました。ちなみに当水明荘に は小沢文男氏、工学部機械科(1972年卒) の方が居られると云うことが分かり、さす がは法政ここにも人材ありと同期生一同喜 んでまたの再会を約して別れた次第。

(八坂 記)



市ケ谷・田町キャンパスから

2010年度 卒業設計公開講評会

公開講評会は2011年1月29日(土)13: 30より市ヶ谷田町校舎マルチメディアホールで、 行われました。

ゲスト審査員に建築家の、難波和彦、高橋晶子、 西沢立衛の3氏を迎え、エントリーした15人の 学生たちが熱の入ったプレゼンテーションを行い ました。



その結果、卒業設計賞及び、特別審査員賞は次 の人たちが選ばれました。

卒業設計賞

●小林夏美 「川縁-3つのエリアをつなぐ場

所— |

●笹本愛弓 「そこにある風景」

●間瀬口純一 「巻き上がる都市-巡る点字図書

館−Ⅰ

[Urban Scope] ●松原翔一

●吉田春香 「共存と壁」

特別審査員賞

●難波和彦賞 山田侑輝 「Azumabasi Water

front Hub I

●高橋晶子賞 笹本愛弓 「そこにある風景」

●西沢立衛賞 吉田春香 「共存と壁 |



2年連続 A日程受験者数日本一

建築学科は 2008 年度に A 日程受験者数日 本一の座を獲得し、翌年には明治大学建築学科 に首位を明け渡したが、2010・2011 年度と 再び首位を取り戻しました。近年の法政建築学 科の人気を物語っています。

石渡辰也君と梅村知足君が「2010年日本 建築学会優秀卒業論文賞」を受賞

デザイン工学研究科建築学専攻永瀬研究室の 石渡辰也君(M1)と梅村知足君(M1)が工学 部建築学科の卒業論文としてまとめた「集落の 記憶―喜界島における集落構成と空間継承―」 が 2010 年日本建築学会優秀卒業論文賞に選ば れ、日本建築学会大会(富山)で表彰された。

この賞は日本建築学会が毎年、全国の建築学 (構造系・計画系・環境系) に係る優秀卒業論文 を公募し、その中より優秀な論文を選考して顕 彰するものである。

【受賞対象論文】集落の記憶―喜界島における集 落構成と空間継承一

『優秀卒業論文賞推薦理由』日本建築学会

琉球薩摩の両文化の影響下にあった鹿児島県 喜界島を対象に集落単位の空間構成原理を探求 し、どのような文化や思想が形として現在まで 残っているかを解明しようとした論文である。 ここでは沖縄の腰当思想・風水思想と集落空間 の対応を分析し神聖領域、墓地領域、旧家領域、 分家領域から構成される腰当思想概念を明解な モデル図にまとめており、作成された喜界島全 集落の空間構造分析シートも資料性が高い。永 瀬研究室の継続研究で自力の独創的研究とは言 い難いが、図表表現が豊かで論理展開も明確で 卒業論文として高く評価できる。

2010 年毎日新聞 DAS 賞に森川久美子 さんが入選。法政大学6年連続の快挙

2009 年度特別審査員佐藤淳賞を受賞した森 川久美子さん(現永瀬研究室 M1)が、卒業設 計「源点懐帰」を、あらゆる部門の卒業設計を 顕彰している 2010 年毎日新聞 DAS 賞の建築 部門に応募し、入選を果たした。作品は大地の 素材「土」を使い子どもの空間をデザインした もの。原寸の実験空間もプロセスで作成してい る。法政大学は、毎日新聞 DAS 賞にこれで6年 連続して入選以上を継続している。



新任に細野禎昭教授

2010年4月より網野 禎昭(あみのよしあき)氏が 教授として着任しました。 スイス連邦工科大学土木 学部で学位取得後、ウィ ーン工科大学建築学科で の教職を経て本学就任と なりました。環境先進国



ヨーロッパでの経験が長い同氏の専門は木造建 築の構法。目下、日本の地方都市における木造 集合住宅を研究中。環境共生時代の建築を目指 した活躍に期待します。

2010年未来エレベーターコンテストで

2010年後藤研究室の田村竜也君が「従来 の都市と移動を一新する斬新で実現可能性のあ

るエレベーターお よびエスカレータ 一利用のアイデア」 募集に応募し、未 来的な夢のあるエ レベーターのアイ デアで受賞した。 テーマ「地域を観 光で活性化する未 来の交通」





大江宏先生の言説を中心に、法政建築学 科の目標をまとめた「アーキテクトマイン ドとは何か?」を製作・印刷し学生全員に 配布をしています。詳細は以下のホームへ ージをご覧ください。

http://www.edn.hosei.ac.jp/architectmind/ aakubu.htm

●法政大学出版局刊行

法政大学エコ地域デザイン研究所(所長 陣内秀信先生)の研究成果として、叢書が出 版されました。水と〈まち〉の物語シリーズ

- ■港町のかたち―その形成と変容 岡本哲志著
- ■江戸東京を支えた舟運の路 一内川廻しの記憶を探る 難波匡甫著
- ■タイの水辺都市―天使の都を中心に 高村雅彦編著

第6回 大江宏賞

2009年度、第6回大江宏賞公開審査会は、 2010年3月27日(土)に、市谷田町デザイン工 学部のマルチメディアホールで行われました。

年々盛んになる大江宏賞審査会、今回は8 人のファイナリストによるプレゼンテーション が行われ、西川遼太郎君の「Hingedo SPACE-複合施設における空間構成の可能 性」と、白井進也君の「都市の余白/新宿コ マ劇場跡地計画」が最後まで残り、決選投票 となりました。その結果、空間構成方法の新し い可能性が評価されて、西川遼太郎君が、第

6回の大江宏賞を獲得することとなりました。

今回新たに大江宏賞運営委員会会長にな った猪野忍さんより、受賞メダルと賞金30 万円が、西川君に手渡されました。

今回の OB 審査員には、吉澤国男(1983 年卒) 鈴木茂雄 (1990年卒) 菰田真志 (1998 年卒)の3名が参加しました。

なお、大江宏賞の審査風景、全ファイナリ ストの作品を建築同窓会のホームページ、大 江宏賞のページで見ることが出来ます。ぜひ 一度ごらんになっていただければと思います。 URL は http://www.hosei-archi-ob.sakura. ne.jp/ohe_award/ です。

今年の第7回審査会は、3月26日(土)13: 00より市ヶ谷キャンパス 55年館 511 教室で 行われます。55/58年館の見学を兼ねて、ぜ ひ大勢の方にお出でいただければと思います。

